

Q2-1 自院が現在、地域の中で果たしていると思う役割×平成28年病床機能報告報告結果【区南部】

区市町村	病院名	Q2-1 自院が現在、地域の中で果たしていると思う役割	病床機能報告				
			高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等
品川区	医療法人社団有仁会 阿部病院	○在宅加療が困難な人々の入院	0	0	0	84	0
品川区	医療法人財団佐花会大井中央病院	○手術・リハビリ後も前身の体調が低下し、老健・特養・在宅不可の方を療養病棟で引き受け	0	0	20	35	0
品川区	昭和大学病院	○高度急性期機能と急性期機能としての役割	815	0	0	0	0
品川区	五反田リハビリテーション病院	○240床のベッド稼働率が99% ○急性期病院からの早期受入 ○在宅復帰率90%の実績	0	0	240	0	0
大田区	社会医療法人財団城南福祉医療協会大田病院	○地域の二次救急病院として区南部の東京ルール幹事病院の役割の中で、救急受入等の改善に努めている。 ○DPC(急性期病院)と回復期病床、在宅と総合的に取組を進めている。	4	135	50	0	0
大田区	医療法人社団京浜会 新京浜病院	○当自治体における数少ない介護療養型医療施設としての、介護・医療両面に亘るサービスの提供。 ○急性期病院の後方連携病院としての機能。	0	0	0	72	0
大田区	医療法人社団京浜会 京浜病院	○認知症によるBPSDの治療や認知症を合併しているために治療困難な身体合併症のある患者を受け入れている。 ○BPSDが改善し、医療必要度も低くなり、他院し在宅や介護施設へ移る患者も多い。	0	0	0	71	0
大田区	独立行政法人労働者健康福祉機構東京労災病院	○地域医療支援病院として、地域における中核的病院の役割を担っている。 ○東京都二次救急医療機関として、また「東京都脳卒中急性期医療機関」に認定された施設として、救急患者の積極的な受入を行っている。 ○東京都災害拠点病院として、関係団体及び周辺自治組織との連携強化を図っている。 ○アスベスト検診、治療就労両立支援を始め、勤労者医療に積極的に取り組んでいる。	6	394	0	0	0

区市町村	病院名	Q2-1 自院が現在、地域の中で果たしていると思う役割	病床機能報告				
			高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等
大田区	医療法人財団仁医会 牧田総合病院	<p>○急性期医療の充実。本年度は6000台の救急車の受け入れを行い、地域の救急医療の要となっていると思う。特に脳疾患(脳卒中、頭部外傷)、整形外科領域の救急搬送が主。</p> <p>○様々な施設と連携し、精査、入院加療を行っている。現在10施設以上との連携をし、施設を含め、在宅医療の後方支援を強化。</p> <p>○介護との連携強化として、年一回介護施設事業所、包括などの担当者との「地域連携懇話会」を開催。年数回施設、介護事業所などのスタッフ向けに勉強会を開催し、介護と医療の顔の見える連携強化に努めている。</p>	6	240	0	0	38
大田区	医療法人社団松和会 池上総合病院	<p>○二次救急病院、災害拠点病院</p> <p>○療養病棟を持ち、回復期、慢性期の入院も受け入れている。</p> <p>○地域の開業医の検査、入院依頼を受け入れ、在宅医療の支援をしている。</p> <p>○医学教育への貢献:医学生や研修医、看護学校、医療系の学校の実習生受け入れをしている。</p>	14	276	0	94	0
大田区	医療法人社団七仁会 田園調布中央病院	<p>○高齢者の急性期医療を担う役割(消化器と呼吸器、整形外科)</p> <p>○急性期を脱した、循環器、呼吸器、消化器の患者さんの対応が可能。大学病院や総合病院との連携を今以上に深めていく。</p> <p>○緩和ケア病棟はないが、緩和ケアチームが活動しており、癌終末期の対応は可能でPRしていく。</p>	0	91	0	0	0
大田区	社会医療法人財団仁医会牧田総合病院蒲田分院	<p>○回復期病床、療養病床を有しているが、特に急性期後の回復期リハでは地域医療に貢献していると思う。</p>	0	0	60	60	0
大田区	公益財団法人東京都保健医療公社荏原病院	<p>○地域医療支援病院として、地域における急性期中核病院としての役割を果たしている。(救急医療、脳血管疾患医療、集学的がん医療)</p> <p>○公的な性格を持つ病院として、行政的医療を提供している。(感染症医療、小児医療、精神科医療、周産期医療、認知症患者医療、災害医療)</p>	12	416	48	0	0